

「スピーチ学習」の評価を活用して

事例 1

一年導入単元から

新しい授業を考える会

一 はじめに

国語科年間計画では、年度初めの導入単元にスピーチなどの「話すこと・聞くこと」の学習を設定している場合が多い。なかでも一年の導入単元におけるスピーチは、これから始まる中学校生活での「話すこと・聞くこと」の活動の出発点として重要な位置を占めると考える。

本稿では、一年の導入単元におけるスピーチの実践をもとに、「二学期以降、生徒の実態をどのようにつかむか」についての実践例を紹介したい。

二 一年導入単元の「スピーチ学習」活用の意義

新入生に関して小学校から送られてくる指導要録の抄本等では、おおまかな学力については情報が得られる。しかし、個々の生徒の国語学力に関する詳細なデータに関しては十分とはいえない。特に、スピーチのような「話すこと・聞くこと」の学習に関しては、たいへん得意としている生徒や、特に苦手としている生徒に関しての特記事項のみが見られる場合が多い。

また、中学校では、学級担任をしているクラスの生徒は別として、教科担当者が学年全員の生徒の顔と名前を覚えるまでには相当の時間を要する。したがって、「話すこと・聞くこと」の力に関する生徒の実態把握は難しいといえる。そこで、中学校での最初のスピーチ学習の結果を次回に活用し、個々の生徒への支援のしかたを工夫する方法が有効ではないかと考える。具体的には、導入単元で行ったスピーチ学習について、生徒による「自己評価」や「相互評価」、「教師による評価」の結果を分析することで生徒の実態をつかみ、個々の特性に合った授業実施のための手がかりにすることができないのではないかと考えた。

三 指導の流れ

単元名 一分間スピーチ「思い出のひとつ」

(1) 実践時期 一年四月

(四クラス 計 百二十三名)

(2) 指導計画 (四時間)

【めあて】「思い出のひとつ」を示しながら、自分とのかかわりを一分間スピーチで発表しよう。

第一時 構想を練る

ア 示すものを決める。

イ いつ示すか考える。

ウ どのように示すか考える。

第二時 スピーチ原稿またはスピーチメモの作成、
スピーチ練習

第三時 発表会

：「ふりかえりシート」記入……………資料1

：「相互評価カード」記入……………資料2

第四時 発表会の続き

：「ふりかえりシート」整理と記入……………資料3

資料1



資料2

資料3

発表したスピーチは原稿用紙に清書し、「思い出のひと品」を収めた写真とともに台紙に貼付し、各クラスの廊下に掲示した。

四 「自己評価」「相互評価」「教師による評価」の比較分析

スピーチ学習時における三者の評価について、「自己評価」を、生徒による「相互評価」を、「教師による評価」としたとき、とがのB規準と比較して高いか低いかを考察し、三者の比較から以下のようなパターンに分類してみた。

- 1型 (高・高・高)
- 2型 (高・高・低)
- 3型 (高・低・高)
- 4型 (高・低・低)
- 5型 (低・高・高)
- 6型 (低・高・低)
- 7型 (低・低・高)
- 8型 (低・低・低)

生徒がこれらのどのタイプに分類されるかで、その後の個別指導に活用していく。

1型 このタイプは、かなりの学力を備えており、自己評価力も適正である。このまま伸ばすよう努力させたい。

2型 教師が示す評価規準が明確に生徒に理解されていない場合が考えられる。教師側の姿勢として、生徒につけたい力を本人やクラス全体に意識させたい。

3型 相互評価のしかたについてクラス全体に確認する必要があると同時に、該当生徒へのクラス内での排斥やいじめなどの可能性についても配慮する必要がある。学級担任との連携を大切にしたい。

4型 評価規準を明確にすると同時に、自己評価の意義や方法について個別に指導したい。

5型 自己評価の意義や方法について個別に指導すると同時に、自分の学習に自信をもつような個別の励ましをしたい。

6型 クラスの全生徒への相互評価のあり方を再度指導する必要がある。場合によっては人気投票的な相互評価になっていることがあるので注意したい。

7型 評価規準を明確にすると同時に、自己評価や相互評価の意義や方法について再度確認したい。また、自分の学習に自信をもつような個別の励ましをしたい。

8型 最も個別指導が必要な生徒であり、他の領域の学習も含めて学習環境を整える支援をしたい。

五 分析結果を活用した個別指導の例
 実際の評価補助簿例をもとに、何名かの生徒について行った個別指導について紹介する。……資料4

資料4

【1年0組 評価補助簿例】

No.	スピーチに使った「星い出の一品」	話し方					時間	その他 (主に気付いたこと)	自己評価	相互評価	教師評価	タイプ
		開	目	声	速	見						
		り	標	大	さ	方						
1	松井選手のサイン	○	○	○	○	○	62	○喜びが伝わる	A	B	A	(3)
2	卒業式の写真	△	△	○	△	△	125	△つかえてしまう	C	C	C	(8)
3	ホームランボール	○	○	○	○	○	89	○臨場感溢れる内容	A	A	A	(1)
4	ローラースケート	○	○	○	○	△	57	○開いかけの工夫	C	C	B	(1) (8)
5	寛永通宝	○	○	○	○	○	56	○題名の工夫	B	B	A	(7)
6	動物	○	○	○	○	○	59	○時間がほぼ1分	B	B	B	-
7	運動會	○	○	○	○	○	60	○目線が特によい	A	B	A	(3)
8	リストバンド	○	○	○	○	○	48	○聞きやすい速さ	C	A	A	(5)
9	紙鶴	○	○	○	○	○	69	○入手の結構が工夫	C	C	B	(5)
10	あわびの貝殻	○	○	○	○	○	65	○見せ方が印象的	A	A	A	(1)
11	トロフィー	○	△	△	△	△	28	△原稿が短い	C	C	C	(8)
12	大事なクラブ	○	○	○	○	○	57	○見せ方がよい	A	B	B	(4)
13	小判	○	○	○	○	○	62	○笑顔を絶やさない	C	A	A	(5)
14	祖父の切手	○	○	○	○	○	55	○開わりがよく伝わる	B	B	A	(7)

自己評価が低い理由について確認しつつ励ました。

7型 の生徒

出席番号 番と 番の生徒が該当。また、番の生徒にもこの要素が含まれると思われる。番 番とも多少気が弱い傾向のある生徒で、目線が下に向きがちであり、自信がないように見えてしまう傾向がある。自己評価でもそのような指摘が見られる。目線以外の項目では十分に達成していることを個別に指摘して励ました。

8型 の生徒

出席番号 番と 番の生徒が該当。まず、「話すこと・聞くこと」以前に「書くこと」の能力が十分でないため、原稿やメモの書き方が不十分である。日常の中で、少量の文章を継続的に書かせる指導が必要であり、教師との間で「三行日記」のような比較的取り組みやすい課題に長期間取り組ませることとした。また、話し方そのものに関しても十分な技能を身につけていないので、ノートを提出させる際などに個別指導の機会をもつこととした。

1型 の生徒

出席番号 番と 番の生徒が該当。ともにすばらしい結果であることを賞賛した後、番の生徒には、一分間という時間を意識するよう助言し、番の生徒には目線を意識した発表に努力するよう助言した。

3型 の生徒

出席番号 番と 番の生徒が該当。番の生徒には目線を意識するよう助言した。番の生徒も含め、相互評価については再度指導する必要があるだろう。また、番の生徒は担任との情報交換で、クラス内の数名の男子から排斥されている事実を知り、担任と連携して教育相談の機会をもつことにした。

4型 の生徒

出席番号 番の生徒が該当。授業のねらいを本人に十分理解させるよう個別指導をする機会をもった。その際スピーチの授業での自己評価と相互評価、教師による評価の差異についても触れることとした。

5型 の生徒

出席番号 番と 番の生徒が該当。また、番の生徒にもこの要素が含まれると思われる。授業でのねらいを十分に理解させたうえで、スピーチの授業での相互評価や、教師による評価が非常に高いことに触れて、自

六 おわりに

一年の導入単元におけるスピーチの実践を活用して、二学期以降「生徒の実態をどのようにつかむか」についての例を紹介してきた。これは「話すこと・聞くこと」に限らず、生徒の国語学力をどうとらえて指導するかという問題にもつながる。指導には時間的な制約もあり、困難な面が多いが、生徒の実態を把握することなしに個に応じた指導は望めない。本提案がなんらかのヒントになれば幸いである。